

# 平成29年度

## ちらん平和こども園

### 自己評価

〈評価について〉  
評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行う。

- |                          |          |
|--------------------------|----------|
| A - 理想的な状態、達成できている状態     | (100%)   |
| B - 達成間近、取り組みなどを頑張っている状態 | (80~90%) |
| C - 通常普通に行われている状態        | (70~80%) |
| D - 頑張って取り組まなければいけない状態   | (40~50%) |
| E - ほとんど達成できてない状態        | (30%以下)  |

## ① 子どもの発達援助の基本

小分類	評価項目	評価結果
(1)教育及び保育過程を、基本的方針に基づき、作成している。	①教育及び保育過程の作成には職員が参加している。	A
	②地域の実態や保護者の意向などを考慮して、教育及び保育過程を作成している。	A
	③教育及び保育過程を保護者に説明している。	A
(2)指導計画の評価・検討を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	①一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	②定期的に指導計画の評価・見直しをし、その結果を指導計画に反映している。	A
	③日常の保育を通して子どもの思いや気持ちを汲み取りながら、指導計画に反映させている。	A
(3)一人ひとりの子どもの発達状況、教育・保育目標、生活状況についての記録がある。	①一人ひとりの子どもの発達状況、教育・保育目標、生活状況についての記録がある。	A
	②それぞれの子どもに関する情報を周知している。	A
	③一人ひとりの子どもの発達状況、教育・保育目標、教育・保育の実践について話し合うためのケース検討を必要に応じて実施している。	A
【特記事項】 教育・保育過程、指導計画について、年間4期に分けて評価・反省・見直しをしている。また、定期的に個々の発達状況や教育・保育方針についても全職員で話し合いをしている。		

## ② 健康管理

小分類	評価項目	評価結果
(1)登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの発育・発達状況、健康状況に応じて実施している。	①登園時や保育中の健康に関するマニュアルがあり、職員に周知している。	A
	②身体測定や健康診断等の結果について、定期的に記録し、子どもの健康状態を保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	A
	③乳幼児突然死症候群(SIDS)・感染症等を予防するマニュアルがあり、それを活用している。	A
(2)乳幼児突然死症候群(SIDS)・感染症等を予防する仕組みがある。	①マニュアルに基づき、保護者へ感染症の予防策及び対応について周知している。	A
	②マニュアルに基づき、保護者へ感染症の予防策及び対応について周知している。	A
【特記事項】		

## ③ 食事

小分類	評価項目	評価結果
(1)食育を通して子どもたちが楽しく食事をし、食べる意欲が育つように工夫している。	①年齢に応じた形態で、それぞれの食事時間に合わせて配膳し、適温給食を実施している。	A
	②旬のものや季節感のある食材を使用し、食文化を伝える工夫をしている。	A
	③子どもたちが育てた収穫物などを調理し、食材への関心や、食べる意欲を育てている。	A
	④発達に合わせた食事の介助を適切に行い、落ち着いた環境で楽しく食事が出来る様に工夫している。	A
	⑤食事の状況に基づき調理内容を改善している。	A
	⑥調理担当者と子どものコミュニケーションが図られるようにしている。	A
	⑦個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。	A
(2)子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	①日々の献立を保護者に示すとともに、子どもの食事の状況を保護者に知らせている。	A
	②子どもに人気のメニューや作り方を知らせている。	C
(3)食物アレルギーは個別に配慮して、食事を提供している。	①毎月の献立を保護者と確認している。	A
	②間違いがないように個別にプレートやトレーなどで分け、調理師・保育教諭と確認している。	A
【特記事項】 ・楽しく食べることを基本とし、その他食事のマナーや好き嫌いをなくすための食育も取り組んでいる。 ・食育畑で育てている野菜に興味を持ったり、嫌いでも食べてみようとする姿も見られた。 ・子どもたちに人気のメニューを知らせるなどの工夫が必要。		

#### ④ 保育環境

小分類	評価項目	評価結果
(1)子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	①自然光を十分取り入れる工夫をしており、室内の照度に配慮している。	A
	②気候や子どもの活動に合わせ、温度、湿度、換気などに配慮している。	A
	③園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう配慮している。	A
	④屋内外の衛生面・安全面に配慮している。	A
(2)生活の場に相応しい環境とするための取り組みを行っている。	①一人ひとりの子どもがくつろいだり、落ち着けるように工夫している。	A
	②生活の場面にあった保育者の声、音楽など音に配慮している。	B
	③植物や小動物に触れたり、楽しみながら育てることができるよう工夫をしている。	A
	④園内に、子どもたちが季節感を味わえるような工夫をしている。	A
	⑤屋外での活動の場が確保され、子どもたちが活動しやすいように工夫をしている。	A
【特記事項】 ・保育中、つい大きな声を出してしまうことがあり、職員間で話し合いをした。		

#### ⑤ 保育内容

小分類	評価項目	評価結果
(1)子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	①子どもにわかりやすい温かな言葉づかいで、穏やかに話している。	A
	②せかさ言葉や制止する言葉を不必要に使わないようにしている。	C
	③子どもの質問に対して、よく耳を傾け、何を求めているかを理解し、適切に対応をしている。	A
	④子どもの要求や訴えに対して、子どもの気持ちを受け止め、状況に応じた適切な対応をしている。	A
(2)基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	①基本的な生活習慣については、一人ひとりの子どもの自主性を尊重し、家庭と連携しながら子どもの状況に応じて対応している。	A
	②子どもが自分で着脱しやすいように、衣類の整理の仕方や着方の援助について工夫している。	A
	③安心して休息できるように配慮している。	A
	④トイレは、一人ひとりのリズムに合わせるようにしている。	A
(3)子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	①子どもの発達段階に即した玩具や遊具を、質・量ともに適切に用意している。	B
	②子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫している。	B
	③好きな遊びが自由にできる時間やコーナーを用意している。	A
(4)身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている。	①身近な自然とかかわる機会をつくり、子どもの様々な興味を引き出し、自然から得た素材を活用している。	B
	②身近な動植物と接することにより、命の大切さや季節感など、豊かな感性を育むよう配慮をしている。	A
	③生活や遊びを通して、数・量の感覚が身につくよう工夫している。	A
	④散歩など地域の中で、多くの人に接する機会をつくり、社会性が身につくように配慮している。	A
(5)様々な表現活動が体験できるように配慮されている。	①身体等を使った様々な表現あそびが取り入れられている。	A
	②様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮されている。	B
	③絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	A
(6)遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	①子ども同士の関係をより良くするよう適切な言葉がけや働きかけをしている。	A
	②喧嘩の場面では、危険のないように注意しながら、子どもたちのプライド、自立性を尊重し、子どもたち同士で解決するよう援助している。	A
	③順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。	A
	④広く社会性が身につくよう、異年齢の子どもたちや様々な年齢層の人たちと交流している。	A

(7)乳児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。  ※0歳児(乳児)がいない場合は、該当しない項目がある	①授乳は、子どもが欲しがる時に、抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。	A
	②離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮して行っている。	A
	③おむつ交換時は、やさしく声をかけたり、スキンシップをとりながら行っている。	A
	④一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、静かな空間が確保されている。	A
	⑤外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。	A
	⑥顔を見合わせてあやしたり、乳児とのやりとりや触れ合い遊びを行っている。	A
	⑦たて抱き、腹這いなど、子どもの姿勢を変えている。	A
	⑧特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	A
(8)長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	①好きなことをしてくつろげる空間や遊具がある。	A
	②一人ひとりの子どもの要求に応じて、抱いたり、声をかけるなど、ゆつたりと接している。	A
	③異年齢の子ども同士で遊べるように配慮されている。	A
	④子どもの状況について、職員間の引き継ぎを適切に行っている。	A
(9)障がい児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。  ※障がい児を受け入れていない場合は、記入なし	①保育を実施するにあたり、園全体の職員がその子どもの障がいの状態を十分理解している。	—
	②保護者の理解のもと、障がいを持つ子との関係機関、医療機関との連携を図り、必要に応じて助言・援助を受けている。	—
	③障がい児の特性に合わせた計画を立て、保育内容を見直し、発達を援助している。	—
	④障がい児が園生活を送るために、必要に応じて園の子どもたちや保護者に障がいを理解できるような言葉かけをし、配慮している。	—
	⑤障がい児をもつ親を受容し、共に育てるといふ気持ちが持てるような関係をつくっている。	—
(10)積極的な健康増進の工夫を遊びの中に取り入れている。	①いろいろな運動遊びを工夫しながら取り入れている。	A
【特記事項】 ・好きな素材を自由に使って遊ぶ環境をもう少し工夫する必要がある。 ・H29年度は、障がい児の受け入れなし。		

## ⑥ 入所児童の人権尊重

小分類	評価項目	評価結果
(1)子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	①子どもが自分の思いや意見を、はっきりと言うことができるよう配慮し、それを尊重している。	A
	②子どもが他の子どもの気持ちや発言を受け止められるように配慮している。	A
	③一人ひとりの子どもの心身の状態、生活習慣や文化、家庭の事情、考え方などの違いを知り、それを尊重する心を育てている。	B
	④子どもの人権への配慮や互いを尊重するための取り組みを保護者を含めて行っている。	B
(2)性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないように配慮している。	①子どもの態度、服装、遊びなどで性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮している。	A
	②保護者にも性差による役割分業意識を植え付けないように働きかけている。	B
(3)保育中の子どもの人格尊重を意識している。	①保育者は、子どもの人格尊重を意識して保育を行っている。	A
【特記事項】 ・人権尊重について、まだまだ取り組みが足りない面が多い。なんとなくで行うのではなく、しっかりと職員間で意識しながら保育できるように改善していく。 ・保護者にむけての人権研修などはまだ取り組みがなされていない。		

## Ⅱ 子育て支援

### ① 入所児童の保護者の育児支援

小分類	評価項目	評価結果
(1)一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	①子どもの送迎時に子どもの様子を伝え合うようになっている。	A
	②連絡帳やクラスだよりなどできめ細やかに情報交換を実施している。	A
	③保護者の意向をふまえて個別面談を実施している。	A
(2)家庭の事情や情報交換内容が必要に応じて記録されている。	①個別面談記録をとっている。	B
	②保護者向けのおたよりは保存してある。	A
	③保護者からの意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	A
	④家庭の状況や保護者との情報交換内容が、必要に応じて、関係職員に周知されている。	A
(3)子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	①保護者会・懇談会などを定期的に開催し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	C
	②クラスの枠を越えて保護者が交流できる機会を設けている。	B
	③子育ての講師を外部から呼ぶ機会がある。	A
(4)虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努めている。	①保育者は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	A
	②虐待児の早期発見の仕方についてマニュアルがあり、全職員に周知している。	A
(5)教育・保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供している。	①「園だより」や「クラスだより」など定期的に発行している。	A
	②クラスごとの保護者会・懇談会などで、保育内容・目的を分かりやすく説明し情報提供を図っている。	B
(6)保護者の保育参加を進めるための工夫をしている。	①あらかじめ年間行事の日時を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている。	A
	②保育参加・保育参観の機会を随時受け入れている。	B
【特記事項】 ・常に家庭と連絡を取り合い、家庭と園と一緒に保育を行っていく体制をつくっている。しかし、仕事の関係上、どうしても子育てに時間的余裕が取れていない家庭があるのもみられる。保護者の交流会や懇談会を開催する機会もあまり多く設定できずにいるのが現状である。保護者に負担をかけすぎることのないよう、また、園だけで取り組む事態にならないよう、バランスを考えて取り組んでいく。		

### ② 地域の子育て支援

小分類	評価項目	評価結果
(1)育児相談や一時保育預かりなど、地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	①いつでも育児相談ができる体制が整っている。	A
	②地域における子育てニーズを把握して子育て支援を実施している	B
	③一時保育など初めて利用する親子が安心して利用できる場づくりをしている。	A
【特記事項】 ・地域の子育て家庭の方に、園庭を開放したりと気軽に園を利用できる体制を作っている。パンフレット等作成しての情報提供はしていないが、子育てサークルや保健センターからの紹介、ホームページでのお知らせなどで園を利用できるような連携をとっている。		

### Ⅲ 地域との連携

#### ① こども園の役割を果たすために必要な地域の関係機関・団体との連携

小分類	評価項目	評価結果
(1)近隣の人々に保育について理解を得たり、協力依頼するなどの配慮をしている。	①地域の人々に向けたこども園や子どもへの理解を得るための日常的なコミュニケーションを心がけている。	C
(2)小学生と園児とが行事などで交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの連携の機会がある。	①小学生と園児とが行事等で交流する機会を設けている。	C
	②職員間の話し合い、情報交換などの連携の機会がある。	A
(3)地域の関係機関などと交流を深めるようにしている。	①育児相談などに際して、専門機関と相談や連携ができています。	A
	②地域の活動内容や連絡先などを把握し、表にまとめるなど、職員が共有するための工夫をしている。	A
(4)こども園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している。	①ボランティア・職場体験などを積極的に受け入れている。	A
	②高齢者施設などの人々との交流の機会を設けている。	A
	③児童クラブの利用者に対して、行事参加の呼びかけをしている。	C
(5)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めている。	①地域の公共施設を利用できる機会を設けている。	A
	②地域の行事に参加する機会を提供している。	A
【特記事項】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時保育を利用している地域の方に、こども園への行事へ参加のお誘いをしている。</li> <li>・行事で地域の公共施設を利用したり、園周辺の企業への訪問、高齢者施設へ訪問など触れあう機会を設けている。</li> <li>・児童クラブの利用者が増えたことで、こども園との交流を取ることが難しくなってきている。</li> </ul>		

### Ⅳ 運営管理

#### ① 基本方針

小分類	評価項目	評価結果
(1)こども園の教育及び保育理念、基本方針を明文化している。	①教育及び保育理念を年度初めに職員で確認をしている。	A
	②基本方針は、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	A
(2)教育及び保育理念や基本方針を職員や保護者などに周知するための取り組みを行っている。	①職員や保護者などに見やすい場所に掲示している。	D
	②保護者会や配布物を通して、保育理念や保育方針を周知している。	A
【特記事項】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育及び保育理念、教育・保育方針は年度当初の保護者会にて配布し、説明している。</li> <li>・新園舎となり、掲示物を掲示する場所を設定できていない。</li> </ul>		

#### ② 組織運営

小分類	評価項目	評価結果
(1)保育の質の向上や改善のための取り組みを職員参加により行っている。	①保育の質の向上や改善のための取り組みについて、意図的・計画的に実施している。	A
	②職員会議等で職員が意見を述べる機会を確保している。	A
(2)施設長のリーダーシップが発揮されている。	①職員の役割分担と責任を明確にすることにより、子どもや保護者への速やかな対応ができる体制をつくっている。	A
	②施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明している。	A
	③施設長は、質の向上に意欲を持ち、その取り組みに指導力を発揮している。	A
(3)運営を改善するための課題・テーマを設定し取り組んでいる。	①意見箱やアンケートなど、利用者の意向・満足度を把握する仕組みがある。	B
	②日常業務時や職員会議等により、業務の効率化について話し合う機会がある。	A
	③運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証、見直しをしている。	A
(4)非常勤職員と連携を取るための取り組みがなされている。	①非常勤職員の意見を聞いたり、話し合う機会を定期的に行っている。	A
	②非常勤職員と連携をうまく取るために担当職員が決まっている。	A
【特記事項】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設長、職員、非常勤職員、すべての職員と連携が取れるように、常に「報告・連絡・相談」ができる体制を整えている。園の運営が円滑にいくために、課題を解決する取り組みをしている。</li> <li>・意見箱を設置しているが、利用した事例がまだない。</li> </ul>		

### ③ 人材育成

小分類	評価項目	評価結果
(1)職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修会を確保している。	①各職員について、適切な研修機会の確保を行っている。	B
	②園内研修を行っている。	A
【特記事項】 ・職員が希望する研修会へ積極的に参加できるようにしている。勤務の体制上、どうしても研修会に参加できないこともあるので、均等に研修会へ参加できる取り組みが必要である。		

### ④ 職場体験・実習・ボランティア

小分類	評価項目	評価結果
(1)中高生などの職場体験・実習生・ボランティアの受け入れ体制を適切に行っている。	①受け入れの意義や方針を全職員が理解している。	A
	②受け入れの意義や方針を保護者に説明し、子どもたちにも伝えている。	A
	③職場体験者・実習生・ボランティアにも園の教育・保育方針及び実施にあたっての注意事項をオリエンテーションの時に周知徹底している。	A
	④実習生に対する指導方針について、職員会議で話し合っている。	A
【特記事項】 ・毎年、中学生の職場体験・保育実習生を受け入れるなど、保育体験ができる取り組みを行っている。		

### ⑤ 安全・衛生・危機管理

小分類	評価項目	評価結果
(1)事故や災害に適応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	①マニュアルは、全職員がすぐに手に取り、見ることができるところにある。	A
	②職員への周知方法として、全職員にマニュアルが配布されている、又は研修や訓練が行われている。	A
	③外部からの侵入に対する対応を実施している。	C
	④緊急時に慌てず対応できるよう、医療機関等の連絡先を表示している。	A
(2)事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	①事故防止、安全管理のためのチェックリストが作成されている。	A
	②毎日、又は定期的にチェックが行われている。	A
(3)調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	①日頃から点検、確認等が行われている。	A
(4)食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている。	①マニュアルは、全職員がすぐに手に取り、見ることができるところにある。	A
【特記事項】 ・こども園での事故を未然に防ぐために、毎日遊具の目視点検、毎月安全点検を行っている。 ・29年度は外部からの侵入に対する対応の訓練ができなかった。		

### ⑥ 守秘義務の遵守

小分類	評価項目	評価結果
(1)守秘義務の遵守を全職員に周知している。	①保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。	A
	②保護者や地域の人から相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し、守られている。	A
【特記事項】 ・個人情報保護に関する誓約書を全職員提出してもらい、守秘義務を守るよう努めている。		